

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1075 2009年10月号



第2回

## 森林ボランティア活動 入門講座開催される



屋外実習では、チェーンソーの目立て方法と、チェーンソーを使っての立木の伐採を行ないました。

【詳細は2頁以降に掲載】





九月一三日、香美市の高知県立甫喜ヶ峰森林公園において、「森林ボランティア活動入門講座」(延べ三日間の二日目)を開催しました。

今回は、受講者一二名のうち一名が参加し、香美森林組合と森林ボランティア団体の「森の応援団・さんりん倶楽部」の協力をいただいて実施しました。

午前中は、屋内での講義として、森の応援団・さんりん倶楽部の永野俊彦氏から、高知県の森林ボランティア団体の現状について説明していただき、続いて、香美森林組合の森本業

## チェンソーを使って伐採を初体験

「森林ボランティア活動入門講座」

《指導普及課》



務課長から、チェンソーの安全な取扱方法について、DVDの映像を交えてわかりやすく説明していただきました。

午後からは、屋外での実習として、チェンソーの目立て方法を学ぶとともに、実際にチェンソーを使って、立木の伐採を行いました。受講者は、チェンソーの使用も山の現場に入ることも初体験の方が多く、緊張しながら作業に当たっていました。受講者からは、「山の仕事の大変さを実感した。」「チェンソーを使うのは面白いが、取扱いの難しさがわかった。」といった感想が聞かれました。

今回の講座では、山の作業の大変さを実感しつつも、その面白さについても感じてもらったものと考えています。

この講座は、一月に、木材利用について学び終了します。

## 森の未来に出会う旅

「建築学科在籍の大学生等のセミナー開催」

《指導普及課》

「森の未来に出会う旅」が、平成二二年八月二三日から八月三〇日までの日程で、高知県本山町汗見川ふれあいの郷清流館で開催されました。

本セミナーは、平成一九年度から実施されており、今年度で三回目となります。森の未来に出会う旅実行委員会が主催しており、本実行委員会には、学生団体、嶺北木材協同組合、(社)高知県森と緑の会、(社)高知県建築設計監理協会、嶺北林業振興事務所、木と人の出会い館NPO法人嶺北活性化機構とともに、四国森林管理局も実行委員会に参加して支援しています。

将来、木造住宅建築などの木材利用の推進役となり得る建



築学科等に在籍している学生達を対象に木造建築や木材流通の流れ、林業などを学ぶ宿泊型のセミナーです。

今年度は、遠くは千葉県や山口県から建築などを学ぶ大学生など二五名が参加しました。

開会式では、参加者二五名が、本セミナーに参加した思いを発表しました。建築の材料である木材が生産される現場を見て、森林について学びたいなど抱負を熱く語っていました。

二日目は、土佐町内の間伐を実施した人工林と間伐を実施していない人工林の間伐を見学、森林整備の大切さなどについて学びました。

その後、土佐町内の原木市場や製材所などを見学し、木材の流通の流れを学び、汗見川ふれあいの郷清流館では、木造の工法や設計などの講義などが行われました。閉会式では、四組に分かれ成果を発表しセミナーが終了しました。

参加者のアンケートには、高知の林業を知って、視野が広がったなどの感想が記述されていました。

将来、これらの学生達が、建築に木材を多く使用し、国産材利用が拡大することを期待しています。

## 平成二二年度「四国山の日賞」団体決定!!

《指導普及課》

四国林政連絡協議会(会長四国森林管理局長)では、平成一八年度から、四国四県との間で締結した「四国の森づくりに関する共同宣言」の趣旨に沿って、四国の森林等をフィールドとして四国の森づくり活動(森林整備の推進、「木材の利用推進」及び「森林環境教育活動の推進」)に積極的に取り組んでいる団体を「四国山の日賞」として選定、表彰しています。

今年度も、四国の森づくり活動に積極的に取り組んでいる団体を募集したところ、四国四県から二三団体の応募があり、八月二七日、林業関係者、環境教育関係者やマスコミ関係者等からなる「四国山の日賞選考委員会」において、厳正かつ公正な審査を行いました。

その結果、森林整備分野が四団体、木材利用分野が三団体及び、森林環境教育分野が三団

体の計一〇団体を今年度の「四国山の日賞」と決定しました。

なお、決定した団体の表彰は、一〇月三十一日から十一月一日に、徳島県徳島市及び勝浦郡上勝町で開催する「四国の森づくりフォーラムinとくしま」の会場（表彰は十一月一日上勝町高丸山）において行います。

なお、受賞団体は、次の団体です。

【多面的機能の発揮に向けた森林整備分野】

- 特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会 (徳島県徳島市)
- かみかつ里山倶楽部 (徳島県上勝町)

- 綾川里山管理同好会 (香川県綾川町)

- 四万十樵塾 (高知県四万十町)

【木材利用推進分野】

- 社会福祉法人池田博愛会 (徳島県三好市)
- 株式会社もくさん (徳島県上勝町)

- 特定非営利活動法人木と家の会 (香川県高松市)

【森林環境教育活動の推進分野】

- 那賀町立木沢小学校 (徳島県那賀町)
- 株式会社大五木材 (愛媛県松山市)

- さめうら工房 (高知県土佐町)

シンメーション  
地域の声

森林への誘い (いざない) 活動



えひめ森の案内人会  
事務局長 清水 民彌

○設立の経緯

えひめ森の案内人会の発足は、平成一五年五月愛媛県主催の「森の案内人養成講座」を修了した一七名の会員でスタートしました。以降毎年多くの修了生の入会があり、現在の会員数は当会主催の「森への誘い講座」修了生からの入会を含め一〇九名、東・中・南予の県内全域から参加をいただいています。

○会の目的

現在、人々の生活は森林とはまったく縁のないところで営まれているように感じられ、森林に対する関心も低くなっ

ている、ここにきて環境問題、エネルギー問題、教育問題等々大きな壁に突き当たり閉塞感にあえいでいます。こういう状況の中で当会は、広く人々の要請に応じた、様々な知識や技術を持つて行う森の案内や野外活動を通じて、人々が森林とふれあい、森林に学び森林を育てる意識の高揚に寄与したいと考えました。

○会の活動方針

- ① 学校その他団体からの要請に応じた森の案内や野外活動等の計画作成及び実施
- ② 愛媛県等の公的団体が実施する各種関連イベント・研



自然観察会風景



森への誘い講座風景

- ③ 外部・内部講師、実践フィールドによるスキルアップ研修の実施
- ④ 森の案内に関する情報収集・調査
- ⑤ 関連諸団体との交流 etc

○会の活動状況

会員相互の親睦を兼ねた月一回の例会で森のインタープリターとしてのスキルアップ研修の実施。各種団体からの要請による、えひめ森林公園をフィールドに自然観察会のチャーター活動、愛媛森林管理署の支援をいただき久万高原町のボランティア団体とともに、四国カルスト「ケヤキ平」遊歩道沿いに「樹木名板(杭)」の設置。県の受託事業として三年間に亘る、県内に散在する巨樹・名木を訪ね調

○今後の活動

当会は一二名の運営員を中心に活動計画を策定し、子供たちへの森林環境教育への企画・実施は勿論のこと、これから第二の人生森林との関わりを持って行動しようとする熟年層の皆さんと、森林の果たす役割等について一緒に考え、知識・技能を磨き、楽しみながら活動をして行こうと考えています。

「えひめ森の案内人会」は、平成二〇年度「四国山の日賞」(森林環境教育活動の推進部門)を受賞されました。

## 各地の

## たより



### 折り鶴も

炭になるんだ!

ー森林教室で炭焼き体験ー

〈ふれあいセンター〉

九月二九日、松野町立松野西小学校四年生二一名を対象に、今年度第四回目的森林教室を実施しました。

この日のテーマは、「炭焼き体験」です。始めに、炭の



種類や利用法を説明し、炭を使った日用品を紹介したり、白炭と黒炭を顕微鏡で観察するなど、炭への関心を持たせました。

続いて炭焼き体験になりました。児童達は、職員から手順や注意点を聞き、早速、もみ殻とともに各自が持参したマツボックリやドングリ、折り鶴などを小型のブリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火で焼くこと約三〇分、煙の色が透明になったことをみんな確認して、缶を取り出しました。

ふたを開ける時は、少し心配そうでしたが、炭になっていたののでひと安心、また、折り鶴や紙飛行機もちゃんと炭になっていました。

児童からは、「炭焼き体験は楽しかった」「炭は色々な利用ができることが分かった」等の感想があり、身近にある材料を使った炭づくりを通して、炭への関心と理解に繋がる学習となりました。

また、この日は地元テレビ局二社の取材があり、夕方のニュースで紹介されました。

## 国際交流キャンプで 森林教室

〈徳島森林管理署〉

天候に恵まれた九月五日、フアガスの森（徳島県那賀郡那賀町）で、徳島市国際交流協会の要請を受け、日本、中国、モンゴル、ブータン、アメリカなど、計八カ国約五〇名を対象に森林の話や巣箱作りを行いました。

徳島県在住の外国人と日本人の交流を促進している同協会が、森林での体験活動を通じて、日本文化への理解を深めて欲しいという強い願いか



ら、今回の森林教室が実現しました。

まず、参加者の出身国の森林についてグループ対抗でクイズ行った後、パネルを使って世界や日本の森林について説明をしました。

その後、スギの間伐材を使用した巣箱を作り、周辺散策を兼ねた巣箱の設置で、参加者は、ブナ天然林の森林浴を満喫しようでした。限られた時間ではありましたが、「日本の森にトラはいるのか」という質問や「鳥の巣箱をかける習慣は自分の国にはない」という声がかかれ、国際色豊かな森林教室となりました。

また、後日、参加者の方が徳島新聞に「森林のありがたさを再認識できた」と投稿して下さり、今後の励みとなりました。

## 夏休み木エ

クラフトづくり

〈高知中部森林管理署〉

八月一二日（水）、県立香北青少年の家にて香南市社会福祉協議会がワークキャンプを開催し、当署は参加した子どもたちに向けての森林の話と



木工クラフトづくりを担当しました。

まず、森林の役割について説明し、その後、クワガタムシとカブトムシの木エクラフトづくり挑戦しました。作り方の説明のときには「むっかしそう」と言っていた子どもたちも、ノコギリやナイフの使い方に慣れてくると夢中になって作品づくりに取り組んでいました。最後に腹に取り付けられた画びょうで木の枝にくっつけて完成させると、どの子どももその出来栄に満足そうでした。

子どもたちは夏休みの工作の宿題としたり、家に飾ったりするのを楽しみにしていました。

シリーズ 2 ようこそ香川森林管理事務所へ

飯の山風景林



金刀比羅宮から望む飯野山

飯野山は讃岐平野に忽然とそびえる高さ四二二メートルの山塊で、円錐形の優雅な山容は別名「讃岐富士」と呼ばれ、山麓と山頂の一部を除き

大部分が国有林で、飯の山風景林に指定されています。丸亀市と坂出市にまたがり、山麓の北側を東西に走り、高松自動車道からは秀麗な姿が通行者の目を楽しませるとともに、交通の目印ともなっており、頂上付近の森林は、瀬戸内海を航行する船舶等の安全のための航行目標保安林にも指定されています。

飯野山には丸亀市と坂出市のそれぞれに登山口があり、頂上まで約一時間で登ることができます。頂上までの間に飯野山を一周する登山道からは、讃岐平野を三六〇度眺めながら登ることができ

き、多くの方がハイキング等に訪れます。近隣住民の中には、ほぼ毎日登る愛好家もいます。また、県外からは、「讃岐うどん」と「飯野山登山」のセットで訪れる方も多く聞きます。

飯野山は、かつては樹齢百年を超すマツで覆われていました。しかし、昭和四十年代からのマツ枯れ被害のため、現在ではマツのほか、コナラやウバメガシ等の広葉樹が生育しています。

現在も多くの方々に利用していただいている飯野山ですが、香川森林管理事務所では、比較的都市部に近いことを利用して、自治体等との連携により複数の学校等を対象とした森林環境教育の一層の推進を図るため、学習・体験プログラムやフィールドの整備等を行う森林・林業体験交流促進対策事業を今年度から行うこととしています。

どろんこサッカー大会に参加

〈四万十森林管理署〉



高知県と愛媛県が県境篠川地区と愛媛県愛南町正木地区の総称「篠南地区」において、九月六日、恒例の「第一九回県境篠山騒動どろんこサッカー大会」が行われ、今年も当署職員に愛媛、徳島森林管理署職員も加えた合同チーム(二チーム)を結成し出場しました。

このイベントは、地元青年グループ「篠山クラブ」が地域おこしの一環として始めたもので、第一回大会からスポーツ好きの職員有志で「フオレスターズ」を結成・参戦しており、平成一三年八月より、同地区が四万十森林管理署から愛媛森林管理署へ編入されたことで、近年は若干疎遠となっていました。今年も篠山クラブのスタッフとして愛媛署職員が活動する傍らで、当署の若手精鋭選手達が見せつけ、文字通り泥まみれになって奮戦し、見事に両チームとも初戦突破を果たすなど、大阪から来ていたお笑いタレントチームにも負けないぐらい会場を盛り上げていました。

かつて、同地区には旧宿毛営林署正木製品事業所と正木担当区事務所があり、良質のヒノキを有する篠山の麓で、県境を越えた住民同士との交流が活発な地域でした。組織再編や職員の減少に伴い、地域と関わる機会が少なくなりましたが、地元住民との交流を楽しみ、少しでも地域の活性化に協力できるよう取り組んでい



ます。

来年はベスト八以上の成績目標を掲げるとともに、国有林のPRとして、一般客向けの食事・休憩スペースも兼ねた愛媛署、四万十署の合同ブースを設置し、地球温暖化防止や国産材活用推進のパネル展示等も検討したいと考えています。

なお、当日の様子は翌日の高知新聞朝刊で報じられ、当署チーム「えいじ軍団」の試合の様子が記事写真として掲載されていました。

シリーズ 88

## 現場第一線から

嶺北森林管理署

瀬戸森林事務所

森林官 原崎

誠



筆者：左

瀬戸森林事務所は、早明浦ダムへ注ぎ込む瀬戸川上流の約二、二六〇haの森林を管理しております。管内には、本川揚水発電の要である稲村ダムや標高約一、五〇〇mの稲叢山があります。

稲村ダムは、近くの国有林野から岩石を削り取り築造さ



れた「傾斜土質しや水壁型ロックフィルダム」で、標高約一、一二〇mにあるめずらしいダム湖ではないかと思えます。その湖畔には、ボラントピアの方々が植栽された、桜やモミジが四季折々の姿で観光客・登山者の目を楽しませております。

稲叢山の山頂に続く登山道には、アケボノツツジやシヤクナゲが自生しており、春



にはアケボノツツジのピンクの花が咲き、この花目当てに観光客や登山者が多く訪れます。また、山頂からは稲村ダム湖全体が一望でき、遠くには西日本最高峰の石鎚山等が展望でき、山々が優雅さを競い合っています。

また、管内には遊々の森「いなむら体験の森」があり、隣の小学校生や各団体の方々の植樹の場や、森林環境教育のフィールドとして活用されています。

職員は、私と基幹作業職員一名で、林道維持、境界管理

及び整備、森林の管理・調査、合同での保育間伐等の造林事業等々の業務を行っております。

管内は急傾斜地が多く存在し、足腰に厳しい地形をしています。そのような地形の為に、怪我をせぬよう心がけ日々調査・管理業務を遂行しております。

森林官になり約八年の歳月が経ち、この瀬戸森林事務所に在勤してから四年目を迎えることになりましたが、まだ分からないことばかりなのが現状です。森林官の業務は管内国有林野の状況を多岐に渡り把握しておかなければならないのですが、まだ行ったことのない箇所があるなど不十分なところもあります。

今後とも日々精進していくことはもとより、先代の方々が苦労して植栽された造林木や苦労して埋設した境界標の管理を行い、無事に後生に残せるよう頑張っていきたいと思っております。